

# さんま漁船の 「転覆事故」防止に向けて

令和元年9月、北海道根室市納沙布岬東方沖の公海上で、さんま漁船が転覆し、乗組員8人のうち1人が死亡し、7人が行方不明となる事故が発生しました。

この転覆事故は、当時、海上強風警報が発表され、発達中の低気圧が接近する状況下、風及び波浪を受けながら航行中、横波を受けて横揺れを生じ、突風も重なってブルワーク没水角を超える傾斜が生じたため、転覆した可能性があると考えられます。

船舶事故調査報告書 URL [https://www.mlit.go.jp/jtsb/ship/rep-acci/2020/MA2020-7-3\\_2019tk0022.pdf](https://www.mlit.go.jp/jtsb/ship/rep-acci/2020/MA2020-7-3_2019tk0022.pdf)



## ①適切な操船を行いましょ

荒天に遭遇した場合、甲板上への海水の打込みが発生しないよう操船に留意し、また、横波を受けることがないよう、風上に船首を向けて航走するか、風波が収まるまで船体を風波に立ててその場に留まり、転覆の危険を回避しましょう。



## ②出港の可否判断を適切に行いましょ

出港前に入手した気象及び海象情報から、自船の堪航性等を十分考慮した上で、出港の可否を適切に判断しましょう。



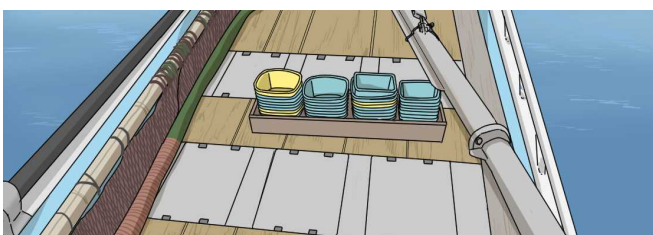
## ③早めの帰港判断を行いましょ

入手した気象及び海象情報を適切に判断し、航行に危険が及ぶことのないよう、早めの帰港判断を行いましょ。



## ④魚倉への漲水は復原性能へ影響があります

魚倉への漲水は、船型、魚倉の大きさ、配置などにより、復原性能への影響があることに留意し、有効性については、事前に十分な検討を行いましょ。



## ⑤放水口の整備を行いましょ

甲板上に打込み水が滞留すると、初期復原力が減少する可能性があることに留意し、打込み水が滞留しないよう、常に放水口の整備を行いましょ。

